

<h1 style="font-size: 2em;">みせん</h1>	<p>瀬戸内海国立公園 宮島地区パーク ボランティアの会</p>	<p>第81号</p> <p>発行日 令和2年9月1日</p>
--------------------------------------	--	--

◇ 目 次 ◇

<p>P-2 大砂利散策</p> <p>P-2 大元道の枯れ死の危機のモミの巨木</p> <p>P-4 四宮神社のハンゲショウ</p> <p>P-5 読書感想 (植物は<知性>をもっている)</p> <p>P-6 宮島 弥山を見る眺望</p> <p>P-10 エゾシカに出会ってきました *** 以上は投稿記事です ****</p> <p>P-11 編集後記</p>	<p>新型コロナウイルスのため次の行事が中止・ 順延になりました。</p> <p>6/13(土):包ヶ浦海岸清掃 (※中止！)</p> <p>20周年記念行事(焼肉懇親会)(※順延！)</p> <p>6/20(土):入浜池補足調査② (※中止！)</p> <p>6/27(土):環境省研修会(冬虫夏草)(※中止！)</p> <p>7/4(土):自主観察(3) 干潟調査 (※中止！)</p> <p>7/18(土):公募観察会②干潟調査 (※中止！)</p> <p>8/4(火):巖島神社前海浜清掃 (※中止！)</p>
---	---

弥山 セッコクの花



三鬼堂前



大日堂階段下



大元道 17丁 絶壁

セッコク (石斛、学名：[Dendrobium moniliforme](#)) は、[単子葉植物ラン科](#)の植物。岩の上や大木に着生するラン科の着生植物。5月～6月に白い色、又はピンク色を帯びた直径3cmぐらいの花を咲かせる。和名は漢名の【石斛】。漢方では強壯、解熱、などの薬効がある。毎年6月初旬には 弥山にセッコクの花を見に行くことにしています。今年には特に花付きが良いように見えました。写真左の三鬼堂前のものは枯れた大木に着生しているもので 本体の木自体がいつまでもつか心配です。大元道の場合は 10年前と比べると 大幅に縮小しているとのこと。 (撮影 2020年6月6日：岩崎、説明文：小林(昴)、岩崎)

「大砂利散策」

森会員

コロナ感染防止のために会の活動中止が続き、暇を持て余して、またまた大砂利に行きました。6月初めの日曜日にしては暑く、入浜には数艘の船と何台かの車が来ていて、夏の陽気の中で皆さん楽しまれていました。大砂利の海岸を少し西に歩くと、写真の光景に出くわしました。写真には写っていませんが、奥の入江にレジャーボートがいて、一人海水浴を楽しまれていました。



(文：森 写真：森)

大元道の枯れ死の危機

モミの巨木

岩崎会員

大元公園の弥山への登山道の最後の橋を渡った左側にモミの巨木があります。(幹回り3.55m) 道からでは茂った立派な大木に見えるのですが、奥に回り込むと何とも痛ましい姿をしています。地上3mあたりから下は奥側の半分の幹の樹皮が崩れ捲れ上がっています。枯れ死に至るのでしょうか。しばらくウオッチしていきます。



登山道からは見ると青々と茂っているが近づくと幹の半分が剥がれている。



半分は普通の状態



3m 辺りから枝が分岐



《解説 山本昌生》

大元公園に枯れそうなモミがあり、解説文をお願いしたいと依頼がありました。送られてきた写真からは痛ましい様子が伺えましたが、実物を見たいと思い7月4日に見に行きました。

モミはマツ科の常緑針葉樹であり、スギやヒノキと比べると寿命は短く、天然記念物級のモミでも300年程度、一般には100~150年といわれています。このモミは折れる前は立派な大木だったようで、保護しようとしていたのか木の周りには石の囲いがあります。地上から130cmの位置で測定した幹周は355cm（直径113cm）ありました。幹は高さ約3mの位置で途中から折れていて、折れた位置から枝が数本立派に育っています。上に向かって新しい主幹も伸びていました。この主幹は太さから20年ぐらいと思われ、もしかしたら2004年に宮島を襲った台風18号により折れたのかもしれませんが。この台風では、大元公園のモミの大木が随分倒れて風景が変わってしまったのを覚えています。枯れている部分は、硬いと思っていましたが触るとスポンジのように柔らかかったです。枯れた部分の上部にハゼとウリハダカエデの幼木が生えていました。将来大きくなりそうです。幹のおよそ半分はしっかりとした健全な状態です。樹木は樹皮の内側に維管束という分裂組織があり、この部分さえ生きていれば首の皮一枚でも育ちます。内部は空洞になっている大木が多いように、内部が腐っても周

りが生きていれば成長します。私の見た感じではこのモミも、半分は枯れている状態ですが樹勢もあり十分成長を続けています。ただし、片側だけしか枝が伸びませんので、将来バランスが崩れて倒れはしないかと心配です。そうでなければ少なくとも数十年は生き続けると思います。機会がありましたら現物をご覧ください。

(山本昌生会員)



写真 2. 花の周りの葉が白くなる
2020.6.27 撮影

「四宮神社のハンゲショウ」

山本昌生会員

紅葉谷公園に四宮神社があり、その前に小さな水路があります。ここにハンゲショウというドクダミ科の植物が群生しています。

(写真 1)



写真 1. 四宮神社のハンゲショウ
2020.6.27 撮影

半夏生（はんげしょう）とは季節を表す用語のひとつで、夏至から 11 日目（7 月 2 日頃）を指し、植物名はその頃に咲くからという説と、半分白いから半化粧とする説があります。

6 月下旬から 7 月上旬に開花し、開花時に花の周りの葉が白く変化して、雨空に映えて美しいです。(写真 2)

原始的な植物で、花には花弁はありません。花自体は小さくて目立たないのですが、葉を白くさせることで昆虫（ハナアブの仲間）をおびき寄せます。おもしろいのは多数付いた小さな花の軸（花序）は逆 U 字状になり、常に開花している部分が一番上になります。(写真 3)



写真 3. 花序が逆 U 字型になり、花が頂点にある。2020.6.27 撮影

花には蜜がありませんが、花粉を食べるハナアブが止まりやすくすることで、受粉の確率を上げているのではないかとされています。したがって、開花の最後はほぼ直立します。(写真 4)



写真 4. 開花後半は花が先端になるため花序は直立する 2020.6.27 撮影

広島県では準絶滅危惧に指定されている希少な植物ですが、平成 16 年 9 月 1 日発行の「みせん」第 17 号で中道会員が紹介しているように小なきりにも大群落があります。通常なら開発されやすい湿地という環境が残されていることとシカが食べないという条件が重なり、希少植物のハンゲショウが宮島に残っていると思われます。なお、白くなった葉は、夏には緑色が戻ってきますが、完全に緑色にはならず白い部分も多少残ります。

(文・写真：山本昌生)

読書感想 村上会員

ステファノ・マンクーゾ著 久保耕司 訳

「植物は〈知性〉をもっている」

の読後感

植物観察会をイメージしてみよう。話し手は、植物に詳しいインストラクター、聞き手は植物のことに好奇心深い植物ファン。質疑応答が活発に行われ、コミュニケーションも素晴らしい。しかし、残念ながら話題の主演である植物からの発言はなく、参加者との会話がな

地球が誕生して 46 億年、植物が分化して 5 億年、現生人類が現れて 20 万年。植物は人類の大先輩、幾多の天変地異を生抜いてきた知略者である。

植物学の研究が進み、植物には人類と同様に、視覚、臭覚、味覚、聴覚、触覚の五感があるという。葉っぱが光に向かっていく屈光性、音楽の中で育てられるブドウなどは、視覚、聴覚の証し。これに加えてさらに 15 の感覚があるという。

植物とぜひ直接会話してみたい。しかし、植物界の生体情報システムは動物界のそれと全く異なり、すぐにはインターフェイスが見当たらない。

ならば、まずは植物の人格・権利・尊厳を認めることから始めよう。そして、あらためて瞑想してみよう。やがて、植物から何かのメッセージが感じられるかも知れない。それは植物とのあらたなコミュニケーションの入口かも知れない。

(文：村上)

宮島 弥山を見る眺望

岩崎会員

江田島クマン岳（標高 400m）からは海上に完全に浮かぶ宮島の姿をとらえることが出来ました。



(撮影日 2020.5.7)

古鷹山山頂より



江田島切串港沖より



クマン岳隣の古鷹山からでは前に島影が重なります

活動休止の中のステイホーム、宮島に関する以前から撮りためていた写真を整理してみました。

宮島をぐるっと囲む東西南北からの宮島弥山の眺望です。島々が重なっていたり市街地のビルが邪魔をしていて、宮島の全景をとらえることが出来るポイントは 意外なことにそれ程たくさんありません。不思議なことに北から見ても南から見ても 観音様の寝姿に見えます。

会のパンフレットに載せている写真は 鈴が峰から撮影したものです。

《南東方面からから宮島を見る》



能美島砲台山



能美島岸根



江田島沖

《東 北東方面からから宮島を見る》



金輪島



小屋浦 大須瀬戸



絵下山----似島の後ろに



天応烏帽子



火山---大茶臼山の後ろに



大茶臼山---鈴が峰の後ろに



宗箇山



三滝・高峠山



日の浦山



黄金山



比治山



江波山



牛田山



宇品港沖



太田川河口



似島 安芸小富士 (森 会員提供)

《北東 北方面からから宮島を見る》



窓ガ山



柚木城山 315 ピーク



阿武山



鈴が峰 (会パンフの写真)



商工センター岸壁



八幡川河口



廿日市大橋



五日市港クルーズ船



海老山



極楽寺山中腹 原



極楽寺山 展望所



船倉山

《北西 南西方面からから宮島を見る》



のうが高原



大野



おむすび山



経小屋山



阿多田島



岩国基地

このほか宮島弥山から見える山---呉沙々宇山、灰が峰、野呂山、周防大島、大峰山、羅漢山、白木山など宮島も見えるはずですが、残念ながら良い写真が残っていません。お持ちの方は是非 みせん編集部までお寄せください。

エゾシカに出会ってきました

岩崎会員



雌阿寒岳登山の折、環境省・阿寒湖畔エコミュージアムセンター奥の「森のこみち」遊歩道にて 7月20日早朝です。カサカサと音がするのでヒグマかとヒヤッとしたのですが、エゾシカが逃げようともせず3m程離れた場所で、しばらくの間見つめ合っていました。エゾシカは宮島や他の鹿と比べてみて一回り大型、近年は増え過ぎているとのことですが、長い登山道にも拘わらず車窓からとこことの2度しか見ることはできませんでした。



奈良公園の鹿 (2014.8)



宮島の鹿



屋久島 ヤクシカ (2007.7)

ここ阿寒国立公園にも 釧路湿原国立公園にもビジターセンターがあり、地元パークボランティアが活動されています。PVの緑の帽子をかぶっていると仲間だと迎えてくれます。宮島にも ビジターセンター開設が望まれます。



阿寒湖畔
エコミュージアムセンター



釧路湿原
細岡ビジターズラウンジ



オンネトーから
雌阿寒岳と阿寒富士

◇ 編 集 後 記 ◇

7月、みせん20周年記念特別号の冊子が手元に届き、歴代自然保護官への配布を終えました。会員の皆様へは12月総会の際にお渡しいたします。初めての冊子だったので改善余地は多々ありますが一区切りです。

写真の花はキレンゲショウマです。8月に恐羅漢山への山登りをかねて、1年ぶりに再会しました。
(麻生)



瀬戸内海国立公園
宮島地区パークボランティアの会

事務局：環境省 中国四国地方
環境事務所 広島事務所

(〒730-0012)

広島市中区上八丁堀6番30号
広島合同庁舎3号館1階

TEL082-223-7450、FAX082-211-0455